



31日、中国江蘇省南京市で経済交流の合意書に調印して握手する愛知県神田真秋知事(中央)と江蘇省の羅志軍省長(右から2人目)＝小坂井文彦撮影

江蘇省と経済交流を

知財保護など、県、合意書に調印

【南京(中国江蘇省)】小坂井文彦(愛知県)と中国江蘇省の経済交流に関する合意書の調印式が三十一日、南京市内のホテルで行われた。調印した神田真秋知事は「日中は戦略的互恵関係にある。愛知と江蘇省も相互利益の

ある関係にしたい」とあいさつ。羅志軍(江蘇省)省長は「金融危機の中、経済交流は有意義。長い目で見て発展させたい」と語った。県は、同省内に進出した地元企業支援や、知的財産権保護の強化などを目指す。同省側は、環境保護技術の交流のほか、蘇州や無錫に比べて外資系企業の少ない南京への企業誘致を求めている。

昨年末現在、県内の企業百一社が同省内に進出している。県は来年一月、日系企業に委託し、進出企業支援の窓口を開設する予定。頻繁に変わる経済制度を広報するほか、地元政府などとのトラブル

になった場合、相談を受ける。県が経済交流について海外と提携するのは、今年三月のベトナム政府に次いで二例目。